情報共有（1枚 非管理メモ）

NISA班←プレス対応T

暫定版

東京電力株式会社
12/3 17°30' 広報班
取扱注意 公開不可

プラント状況（本店レク）議事メモ

日時：平成23年12月3日（土）11:00～11:15
場所：東京電力本館3階大会議室
先方：記者約10名（カメラ3台）
当方：原子力・立地本部 [redacted]
原子力設備管理部 [redacted]
広報部 [redacted]

配布資料：なし

[redacted]よりプラント状況に関して説明。

質疑：

Q. キュリオンに新たに設置するKHベッセルについて、詳細を教えていただきたい。

A. キュリオンの最終段は当初ヨウ素除去用にAGHベッセルを使用していたが、最近の滞留水はヨウ素濃度が低く、AGHベッセルの当初の目的であるヨウ素除去機能は現段階で必要性が薄れている事から、現在はHベッセルを代用していた。このたび、Hベッセルに代わって、低濃度のセシウム吸着性能が良いKHベッセルを採用する事により、放射能除去性能をさらに向上させるとともに、廃ベッセル発生量の低減を図る事とした。KHベッセルの遮へい体の厚さはAGHベッセルより厚く17.8cmであり、スキッド表面線量は以前と同様、最大4mSv/hで管理する。また、交換頻度は1塔につき約1ヶ月程度を見込んでいる。

Q. KHベッセルの運用の開始はいつになるのか。

A. Hベッセルの取り外しは本日、KHベッセルを交換するのは12月6日の予定。

Q. 事故調査の中間報告では耐震評価について1号機と5号機とを比較し、プラントへの地震影響はなかったとのことだが、サイズの違う2基の比較は妥当なのか。

A. 1号機と5号機ではサイズ等が違うが、格納容器のタイプは同じマークⅠであり、IC有無の違いこそあるが、ECCSの構成やPLR配管などの基本的な配管は同じなので類推できると考えている。現場を見ないと断定できないが、各プラントの設計許容値が東北地方太平洋沖地震の地震動を大きく下回っているので、安全上重要な設備の健全性が確保できていないことはないと考えている。

Q. S／Cはスロッシングが発生して、機能維持できていたのか。

A. 今回の地震前から評価は行っている。逃し安全弁が作動した際に、蒸気が圧力抑制室に与える加重に比べると影響は小さいと評価している。

Q. スロッシングについて、今回の揺れの計測時間での確認はしているのか。

A. 東北地方太平洋沖地震の地震動の計測時間での検討はしていないが、設計許容値以下であるので、大きな問題はないと考えている。

以　上

2011年12月 3日 18時11分 東電(株)原子力立地 法務室 No. 1369 P. 16